

『羅作品集』によせて

二〇〇〇年八月一日創刊の「羅」は、二〇一五年に十五周年を迎えます。

このたび、その十五周年を記念し、初めての合同句集『羅作品集』を上梓いたすことになりました。

「羅」の会員は、年齢七歳から九十歳、俳歴半年から五十年と幅広く、地域も全国各地はもとより外国に及んでおりますが、創刊の折に掲げました「風通しのよい会」をモットーに歩んでまいりました。

一同、日々俳句に精進しておりますことは勿論ですが、創刊十周年を祝して、松本市美術館で展開いたしました会員による俳句と写真展「四季に詠う」、そして、二回に亘る「らいてう忌」全国俳句募集、さらに、松本市で開催されました「国連軍縮会議」記念「平和な一句」の全国俳句募集などを主催してまいりました。そのたび、「羅の会」の人材の豊かさ、行動力を有難く思いました。この作品集も会員の力によって編み出すことができますこと、幸いに思います。

何よりも、創刊より今日まで私どもの会のために、ご尽力賜りました皆様へ、心から
のお礼を申し上げます。本当に有難うございました。
どうぞ今後とも、ご指導ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

二〇一四年 初冬

俳句羅の会

代表 飯島 ユキ

羅
作
品
集

異界

青木 古道

ほどほどに腹減る昼や花曇
どこまでも飯の輝く寒玉子
天平の色の潜むや毛糸玉
ビル影にビルの影さす秋の蟬
隧道を抜けてこの世の夕立かな
痛きまで顔洗ひけり修司の忌
アルプスの形ととのふ初茜
辛夷あり空あり地ありカメラあり

禿頭のシャンプーまみれ秋の夜
秋風や黒き錆浮く肥後の守
甘過ぐる酒に遅日の自嘲かな
この金魚自分でないと言へるのか
明日のこと何も思はず日向ぼこ
汗だけを信じてゐたり少年期
口中に異界生まれぬ氷水
首筋に残る暑さや映画館
清明や画布に落とせる空の色
胡坐かく畳の青き良夜かな
刃物研ぐ音の低さや貝割菜
たはむれの水鉄砲に声あげて

松本市在住

「羅の会」に加えていただき約6年。

定型という“不自由”の中に無限の自由
を見る俳句の世界に感嘆しています。